

見出し	地震で心配なこと、困ること			対 策	誰 が			いつ		
					自分	地域	行政	今から	その時	被災後
地震による直接被害(津波・土砂・家屋倒壊)	家具の転倒防止をしていない	火災	家の倒壊	<ul style="list-style-type: none"> ・がけ崩れ対策は日頃より各自、常に点検しておく ・家具の転倒防止対策 	○			○		
	がけ崩れ	山の崩壊により家が潰れる	山崩れの心配箇所が多い							
	液状化による家の倒壊	住居の耐震性は？								
津波による被害	津波の到着と避難経路の関係、樋門を閉めることができるか(国土省)	洪水を想定して津波は想定してない？	津波で後川はどうなるのか？	自分で調べる	○			○		
	佐岡は浸水しないか？	居住地へ津波がくるか？	ハード整備が機能するの？							
避難場所の心配	避難場所を知らない	出かけている先での避難場所がわからない	河川側農地の作業での避難	<ul style="list-style-type: none"> ・避難については、各自・各家庭で検討させておく 	○			○		
	避難場所を設定しにくい	道路が通れないときどうする？	低地帯にある為、自家用車の避難場所がない							
	避難建物はどこ？									
地域の意識が低い(自主防)	自主防災組織の有効な活動方法(取り組み方法)	防災放送は設置されているのか？	自主防災組織がうまく機能するか不安	<ul style="list-style-type: none"> ・防災倉庫の設置 				○	○	
	備えに対する意識が低い	地区住民の意識が低い								
要援護者	情報公開(弱者、病人)	(被災した時)動けなくなった時、助けにきてもらえるか	区長の立場で、一人住まいの老人が心配 共助の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報も大切だが、個人の人の生命に係ること 各人の意識でどうにもできる？ 	○			○		
	高齢者、独居者など弱者の救助 人員に余裕がない									
その他	医療と食料物資の確保			<ul style="list-style-type: none"> ・非常食の用意をする ・通院方法の事前研究と日常の健康管理 	○			○	○	
	安否確認ができるか不安	連絡方法として携帯電話しかないが、他の方法は	自分・家族が最優先							

見出し	地震で心配なこと、困ること			対 策	誰 が			いつ	
					自分	地域	行政	今から	その時
避難	外国人への避難も考える必要がある	津波が到着する時間、マチマチ(津波の高さ)によるけれど、どうすれば良いか？	要援護者の避難の可否(津波から)	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい看板 ・日頃から隣人同士のつながりを作っておく 					
	津波時、高い所へ逃げる時間が無いので一時避難場所がほしい	近くに池があるが、つぶれたら心配 海からの高さ4m程度							
情報	お互いの連絡網の断絶への不安	地震後の離れて住んでいる家族の情報が必要	山奥の住民の心配として、地震時の通信方法をどうするのか	<ul style="list-style-type: none"> ・アジアの人に理解しやすい表現で避難所を示す「安全な場所」という意味で ・日頃から避難場所と避難ルートの確認をしておく ・誰が見ても理解できる避難標識をつくる(全国共通のもの) 					
	アジアの人達の情報がむずかしい								
逃げ場所	一時避難場所をつくる為に国・県・町が建設費を助成してほしい	避難場所に行くまでの道が崩壊する恐れがあり心配	職場からの避難は困難である事	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者が開けにくくするのはないのー地元の人にカギを預ければ解決できる ・旧大方町アツキ会館の場合も、ふるさとセンターと同じ 					
	旧大方町ふるせんに避難した場合、戸が開まっていた場合、どうすればよいか 特に雨降りの場合	街のつくりが古く、狭い路地が多いため、避難路が確保できないかもしれない	障害者や老人の人達の避難する場所を確保できない恐れがある						
職場	職場で地震発生時の避難誘導の仕方がうまくできるか不安			<ul style="list-style-type: none"> ・津波が落ち着くまでの一時避難場所をつくる ー高い所が必要 					
自宅	自宅への山津波による危険性の高さ	津波による建物や道路の崩壊や浸水	自宅の倒壊	<ul style="list-style-type: none"> ・公営住宅などをつくり、一番上を避難場所とする 					
	地盤が砂地であり、家屋の倒壊が心配である(家が古い)								
外国人対策	弱い立場の人を大切に	習慣の違いがあつてむずかしい		—					
公共施設など	R56号が寸断され、町全体が孤立化し、救援がこない	土佐清水は消防署が大変危険な場所(海岸)にあるため、市民の救助ができるかどうか	西日本全体が被災すると、高知県の西部は特に救助部隊が入ってこない(地理的ハンディ)	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署を安全な所へ移転 ・消防等だけに頼らないよう日頃から地域との連携を心がける ・安全な場所に移転する話があれば協力する ・公共施設の建設計画を作成する時に地震対策を盛り込む 					
	地震発生時の地方行政職員の教育は出来ているか	黒潮町消防署現在場所で大丈夫ですか？	地震計の設置場所4.2mの高さでは、1回来ればパー						
	公共施設の職員の机の背後のキャビネット等、物置きが職員の背後に倒れかからないか	消防屯所が浸水危険エリア内にある 出勤出来るか？ ー火災の対応が心配	町内に病院が少ないので、ケガ人が出ると手当てが行き届かない						
その他	山が鳴る山からの落石が心配です	1945年地震発生時、家が倒れて人が敷かれて近くに火災が発生して非常に困った		—					